

重症心身障害病棟だより

ひまわり

独立行政法人
国立病院機構

甲府病院

甲府市天神町二の三五

発行責任者
院長 長沼 博文

100号

祝100号
記念号

平成二六年度の挨拶

院長 長沼 博文



平成二六年四月号が「ひまわり」第一〇〇号となります。

また、平成二六年十月で旧

西甲府病院と甲府病院が統合

して十年となります。



私が院長になったのが平成十七年八月でしたから、もう十年近く経過したのかとの思いです。この間を振り返ってみると、統合当時は、呼吸器をつけているような重症の患者さんも少なく、病棟の看護師さんの数も今と比べると少ない数でした。その後、年々医療ニーズの高い重症心身障害患者さんの割合が増えて来ており、手厚い医療や看護を行うには必然的に多くの看護師が必要となって来ました。このようなことから、平成二十年五月から看護師を増員し手厚い看護体制（一〇：一看護体制）、さらに平成二十五年三月からもう一段階上の手厚い看護体制（七：一看護体制）を取りました。

親の会の発行について

親の会会長 佐田 公男



「ひまわり」第一〇〇号発行おめでとうございます。西甲府病院から移転にて間もなく一号が発行されることになることとなります。毎月の行事予定や連絡事項や催物の様子など、親にとっては、普段疎遠にしている病院とのつながりに大変役立っております。

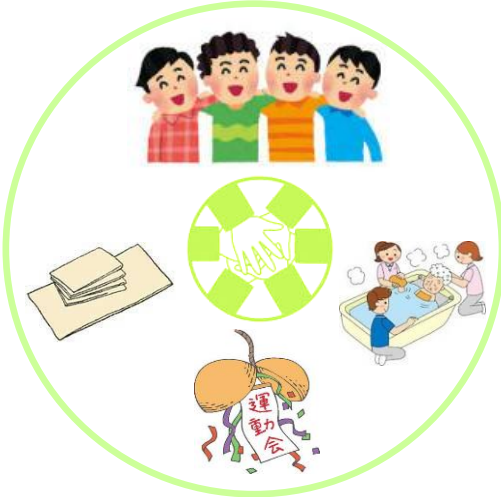
山梨県に重症児病棟、西甲府病院が出来てから四〇年程になります。当時は病院、子供、親は一体で生活してきました。毎週二回のお風呂は当番制で、親が交代で入浴をさせたものです。少なくとも一カ月に一回は入浴当番が回ってきます。我が子の事で欠席は出来ませんが、仕事は休暇をとって参加をしたものです。またオムツたみは、毎日の日課で時間さえあれば従事したものです。山のように洗濯されたオムツを七、八枚を重ねて直ぐ使用できるようにする作業は、大勢のボランティアの方と毎日毎日終わることなく行う日課でもありました。特に運動会のテントの設置は親の仕事で、前日に、近所の小学校にテントを借りに行き組み立てを行い、終了次第お礼で、返却に行ったものです。もちろん、病棟から会場までの子供の移動は親の仕事で、何回も車で会場まで運んだものです。



「この様な奉仕活動の中で、親同志は深い絆で結ばれ、同じ悩みを持つもの同志で、子供の将来の事や、現在のおかれている状況など、気軽に話せるのは、病院のなかだけでした。親の会はこの様な中で必然的に発足したものです。」

新しい病院に移転してからは、環境も良く、親の奉仕も無くなり面会も自由になりました。反面、親同士の交流も少なくなり、最近では親の高齢化も進み面会に来るのも少なくなっております。

素晴らしい環境の中で生活できること、熱心な看護で何不自由なく生活できることに感謝しております。世の中にはまだまだ、沢山の重症児がおります。少しでも同じ立場にある人とのつながりを持ち、重症児の幸せの為に、親の会としても最善の努力をして行きたいと思えます。



ひまわり第一〇〇号発刊に寄せて

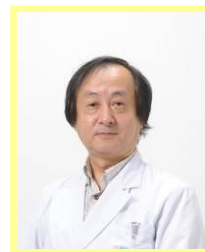
重症心身障害病棟部長 内田 則彦



「ひまわり」第一〇〇号発刊を迎えました。四季折々の

病棟の様子をはじめとして病

院からのお知らせなどをお伝えしてききました、その記念す



べき一〇〇号にご挨拶させていただける幸運に恵まれました。

私事ですが、平成二十一年十月に重心病棟部長という重責を命ぜられ赴任しました。それまでは県内外の一般病院で急性疾患や専門領域の診療をしておりましたので、右も左もわからないことばかり。法律や制度の変更も迫っていました。見るに見かねた歴代事務部長、看護部長さんからたくさんのご配慮をいただきましたし、当時の杉山療育指導室長、つづいて渡辺室長が手とり足とりの指導を下さいました。ベテランの小児科医師や病棟スタッフの存在は宝物です。赴任当時のひまわりは四十六号でした。少しずつですが内容が進化充実してきています。ひまわり同様に病棟のためになるように進化が続けられるよう努力していきたいと思っておりますので、よろしく願います。

今年も午年、午年生まれの人はいつも明るく朗らかに誰とでも分け隔てなく付き合えることができる上に、行動は機敏で人に遅れをとることを嫌がる負けず嫌いで、人生への取り組み方も積極的なのだそうです。その一方、気がさっぱりとしていて物事にこだわらない人が多いようです。少し見習わないといけません。ただし、動物の馬は十二支を覚えやすくするために割り当てただけで、午の本来の意味は子年から始まった十二支十二年の折り返し、陽から陰へと変わる転換期だそうです。良くも悪くも区切り、季節としては初夏をあらわし、草木の成長が一段落し夏の猛暑や秋の実りへと向け力を蓄えるべき時期です。目先のことに翻弄されず将来への方向性を見定めたり、何かを学んだり挑戦したりとこれからのために力を養うのに適した年なのだそうです。

繰り返される法律や制度の改正で翻弄されることなく、将来を見据えて、みなさまの療養環境をよりよくしてゆくことが大切です。毎月の重心病棟運営会議では院長先生、看護部長、事務部長ほか幹部の方々、病棟師長はじめ多数の病院スタッフが知恵を絞って下さっています。

多くの方のお力をお借りして頑張っていきたいと思えます。今年もよろしくお願いたします。



「ひまわり」100号発行記念号

8病棟看護師長 永嶋 まゆみ



重症心身障害児病棟だより「ひまわり」100号発行おめでとうございます。

重症心身障害児病棟は平成十六年十月より定数一二〇床で開棟しました。現在は一二六床の定数となり年間二四二人の利用者が治療を受けながら生活しております。私が赴任したこの三年でも患者層が大きく変化しました。高齢化と重症化です。重症者の指標である、「超・準重症児者数」が全体の四〇%以上を占めるようになり、医療的ケアを必要としている人が増えています。私達は日々のケアを行うだけではなく、利用者の日々の生活が「生き生き」と「今この瞬間を大切に」「生活に潤い」を持てるように、医師初め指導室やリハビリスタッフと共に連携してチームで関わっています。

今後一人ひとりの生活が有意義に過ごせるように個々に合わせた支援を実施していきたいと考えております。まだまだ不十分な点もあろうと思いますが、「家族の皆様関係者の方々のご支援よろしくお願ひいたします。」



100号発行記念号

療育指導室長 山田 宗伸



重症心身障害児病棟だより「ひまわり」が第二〇〇号を迎えるにあたり、「ご家族をはじめ関係の皆様」からお礼申し上げます。

現在の「ひまわり」は平成一八年一月に第一号が発行されましたが、障害福祉制度も大きく変わる時期でもありました。「聞きなれない言葉」や「手続き」が増える中、「ひまわり」では、病棟での「生活」の様子をできる限りお伝えし、一人でも多くの方に「喜び」や「楽しみ」を共感していただけるように取り組んで参りました。

昨年四月には、これまでの「障害者自立支援法」から「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に名称が変更になりました。これから二〇〇号、三〇〇号と歴史を積み重ねていく中で、これまで以上に「より良い生活」そして、利用者の皆さんの「笑顔」をお伝えできるように心がけていきたいと思っております。



行事などの予定

平成26年度の行事予定



季節行事

7月7日(月) 七夕会

7月23日(水) 夏まつり

10月8日(水) てんじん文化祭2014

12月17日(水) クリスマス会

2月3日(火) 節分会

誕生会

4・6・8・10・1・3月に実施

※今年度より、誕生会は

2ヶ月に1回実施となる予定です。

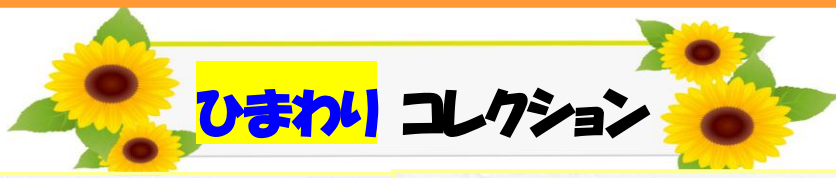
外出活動(社会見学)

4月11日・3月に実施

※各行事の詳細については、改めて

ひまわり等にてお知らせいたします。





ひまわり コレクション

《重症心身障害病棟だより ひまわりの歴史》

平成二八年一月一日

第一号 創刊号 発行

平成二六年四月一日

一〇〇号 記念号 発行

これまで、病棟だより「ひまわり」は、行事の予定を報告、制度移行に関するお知らせ等を伝えてまいりました。

てんじん 第1号

てんじん ニュース

2006年1月1日発行

てんじん 第1号

院長 長沼 博文

新年のご挨拶

院長 長沼 博文

独立行政法人国立病院機構甲府病院

あけまして おめでとうございます。

あけまして

ひまわり

2006年1月1日発行

ひまわり

2006年1月1日発行

行事などの予定

一月予定

二月

ひまわり 第1号

(平成18年1月1日 発行)

てんじん第1号と同時に発行

独立行政法人国立病院機構甲府病院

<ひまわりと重症心身障害病棟の制度移行>

平成25年4月号 (第88号)

ひまわり 発行日 平成25年4月1日

重症心身障害病棟だより

ひまわり

院長 長沼 博文

第88号

「平成25年度の挨拶」

院長 長沼 博文

「行事などの予定」

院長 長沼 博文

「療養介護 サービスへの移行」

院長 長沼 博文

「利用契約と個別支援プログラムについて」

院長 長沼 博文

独立行政法人国立病院機構甲府病院

平成24年4月号 (第76号)

ひまわり 発行日 平成24年4月1日

重症心身障害病棟だより

ひまわり

院長 長沼 博文

第76号

「平成24年度の挨拶」

院長 長沼 博文

「行事などの予定」

院長 長沼 博文

「療養介護 サービスへの移行」

院長 長沼 博文

「利用契約と個別支援プログラムについて」

院長 長沼 博文

独立行政法人国立病院機構甲府病院

平成18年10月号 (第10号)

ひまわり 発行日 平成18年10月1日

重症心身障害病棟だより

ひまわり

院長 長沼 博文

第10号

「平成18年度の挨拶」

院長 長沼 博文

「行事などの予定」

院長 長沼 博文

「療養介護 サービスへの移行」

院長 長沼 博文

「利用契約と個別支援プログラムについて」

院長 長沼 博文

独立行政法人国立病院機構甲府病院

平成25年4月1日 ~

障害者総合支援法 施行

医療型障害児入所支援

療養介護

平成24年4月1日 ~

つなぎ法 (整備法) 施行

児童福祉法 (18歳未満)

障害者自立支援法 (18歳以上)

平成18年10月1日 ~

児童福祉法 改正

・「契約入院」へ

・成年後見人の選任

・個別支援計画作成





25年度 行事写真館 ①



<重症心身障害病棟 年間行事>

冬の行事



秋の行事



夏の行事



クリスマス会

12月18日



てんじん文化祭

10月9日



夏祭り

7月24日



節分会

2月3日



行事開催時には、多くのご家族のご参加をいただき、ありがとうございました。
行事について、ご意見等ございましたら、職員までお伝えください。





25年度 行事写真館 ②



誕生会



社会見学



キティちゃん来院

8月28日



鷹木選手来院

10月23日



障害者芸術文化祭

12月6日



平成25年度は、**国文祭**や**芸文祭**等、当院でも様々なイベントを実施しました。

<編集後記>

毎月「ひまわり」をご愛読いただきまして、ありがとうございます。
皆様のおかげで、今回100号を迎える事ができました。
この100号(記念号)によりこれまでの歴史を振り返り、そしてこれからの歩みへとつながっていく事ができれば幸いです。

今後とも、病棟だより「ひまわり」をよろしく願いいたします。
(重症心身障害病棟 職員一同)

独立行政法人 国立病院機構 **甲府病院**
National Hospital Organization Kofu National Hospital

